

2020年3月期 通期決算説明

2020年5月12日（火）

代表取締役社長 木村有仁

 東洋合成工業株式会社

目次

1. 2020年3月期 決算概要

2. 新型コロナウイルス感染症対策

3. 中期経営計画の進捗

4. 2021年3月期の業績見通し

1. 2020年3月期 決算概要

2. 新型コロナウイルス感染症対策

3. 中期経営計画の進捗

4. 2021年3月期の業績見通し

2020年3月期 通期業績ハイライト

- 売上高、利益、全て過去最高を達成。
- 売上高は24,455百万円（前年比+1,480百万円、+6%）。
- 利益面は、営業利益2,184百万円（+624百万円、+40%）、経常利益2,061百万円（+494百万円、+32%）、当期純利益1,852百万円（+681百万円、+58%）。

(百万円)	前期 実績値	当期 業績予想値	当期 実績値	前期比		業績予想比	
				増減額	増減率	増減額	達成率
売上高	22,975	25,500	24,455	+1,480	+6%	△1,044	96%
営業利益	1,559	1,800	2,184	+624	+40%	+384	+121%
経常利益	1,567	1,700	2,061	+494	+32%	+361	+121%
当期純利益	1,171	1,600	1,852	+681	+58%	+252	+116%
1株当たり当期純利益	147.54	201.58	233.43				
1株当たり年間配当金	10.00	20.00	20.00				
為替レート (USD)	¥110/\$	¥107/\$	¥109/\$				

2020年3月期 通期業績のポイント

■売上高

- ✓ 24,455百万円（前年比+1,480百万円、+6%）
- ✓ 感光材：半導体向けは好調に推移し、FPD向けは前年比微増。
化成品：先端半導体向け製品や、海外香料向け製品が増加した一方、メモリ等汎用的な電子材料向け溶剤は微減となりました。
ロジスティック事業（ケミカルタンクターミナル事業）は好調持続。

■営業利益

- ✓ 2,184百万円（+624百万円、+40%）
- ✓ 感光材の生産増強投資に伴う固定費増（労務費・減価償却費等+450百万円）を吸収し、先端半導体向け製品、香料製品、高付加価値品の増販により、増益。

■経常利益

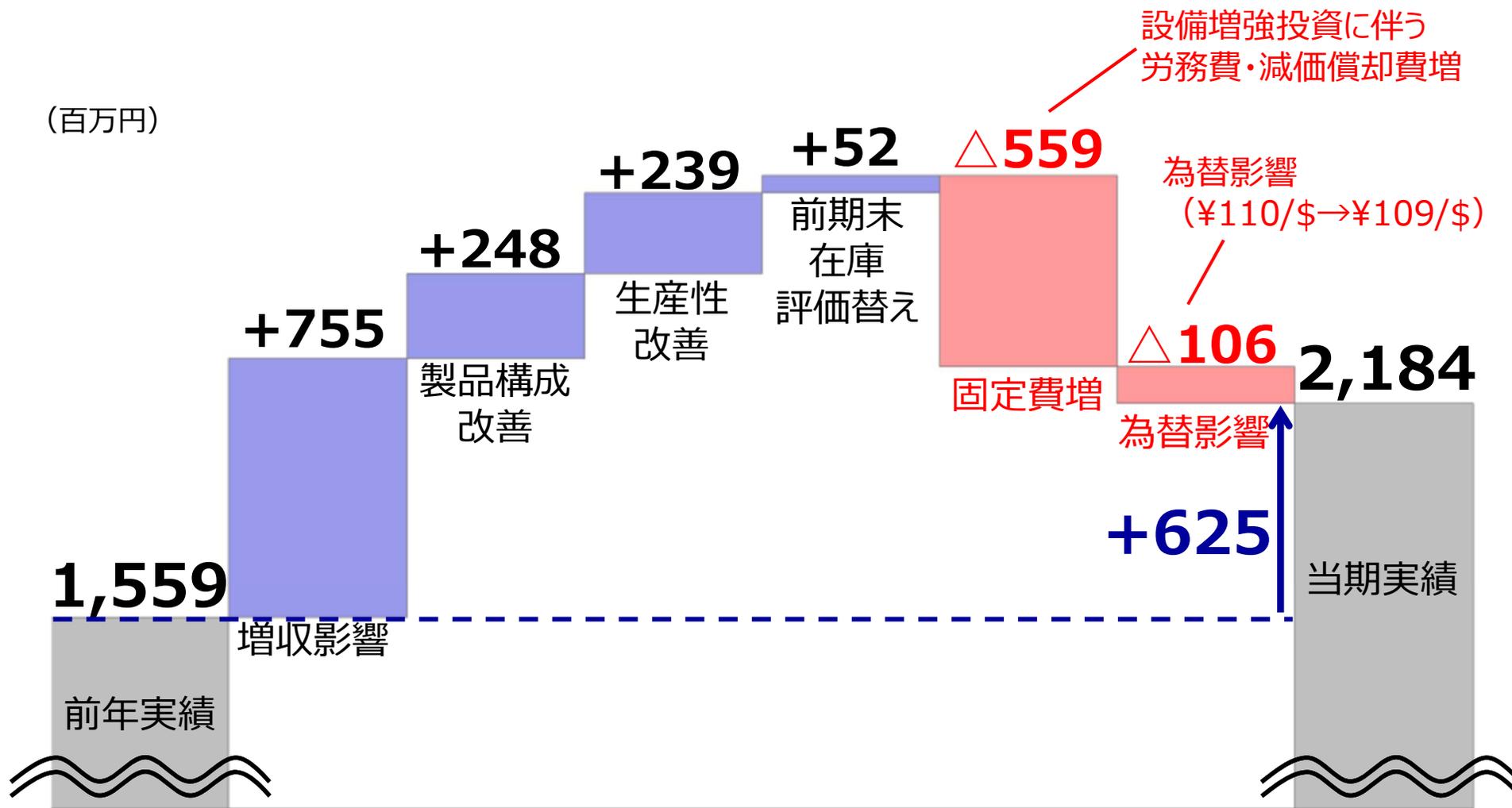
- ✓ 2,061百万円（+494百万円、+32%）
- ✓ 営業外損益：前年比較では、為替影響、保険金、金利により130百万円の費用増。

■当期純利益

- ✓ 1,852百万円（+681百万円、+58%）
- ✓ 当期純利益は、一過性の繰延税金資産の計上に伴い増加。

営業利益 前年比増減要因

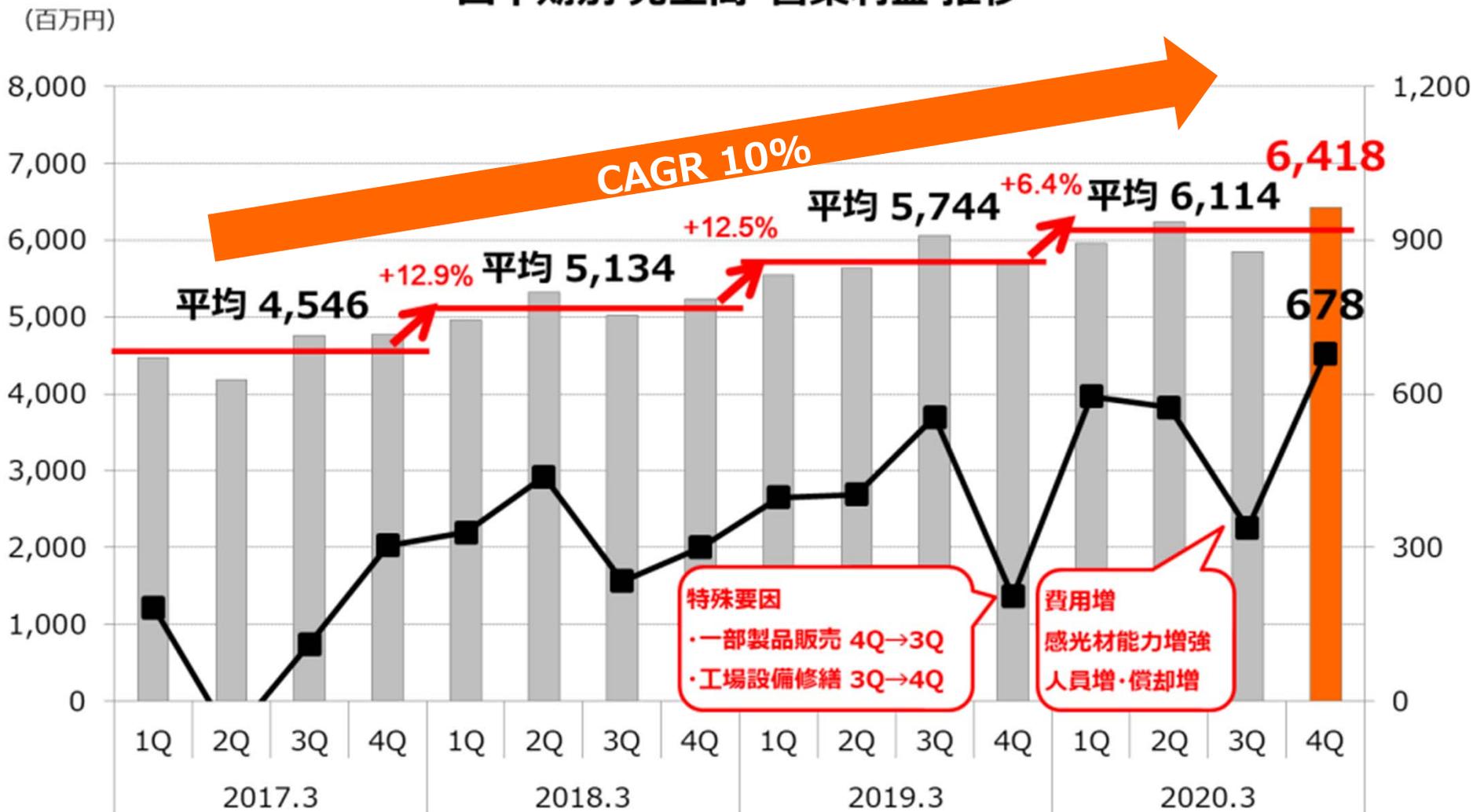
- 成長投資の固定費増を、販売増で吸収し、増益。



四半期別 売上高・営業利益推移

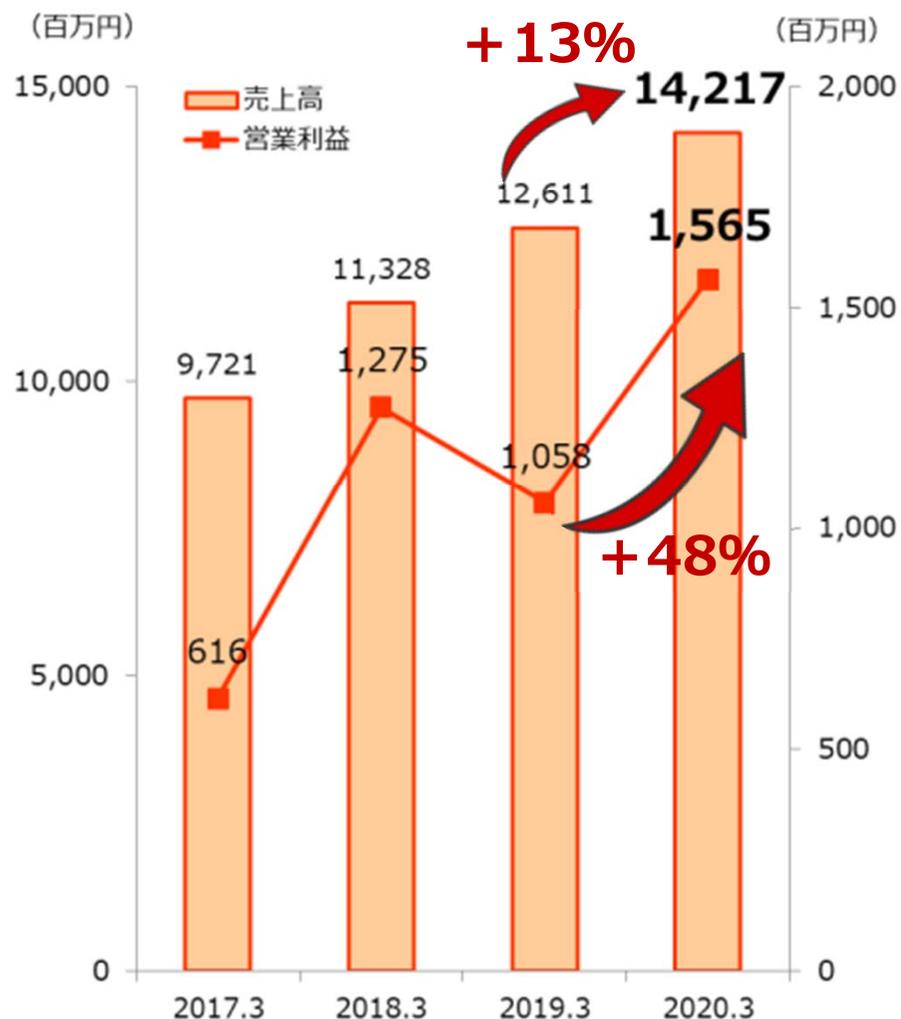
- 売上は着実に増加（CAGR10%）し、四半期営業利益も2億水準から6億水準へ
- 4Qは、四半期ベースで過去最高の売上（6,418百万円）を記録。

四半期別 売上高・営業利益 推移



感光性材料事業セグメントの通期業績

売上高・営業利益



売上高：14,217百万円

(前年比+1,605百万円、+12.7%)

- 先端半導体(EUV、ArF)向け感光材が好調に推移。
- FPD向け感光材も前期比微増。

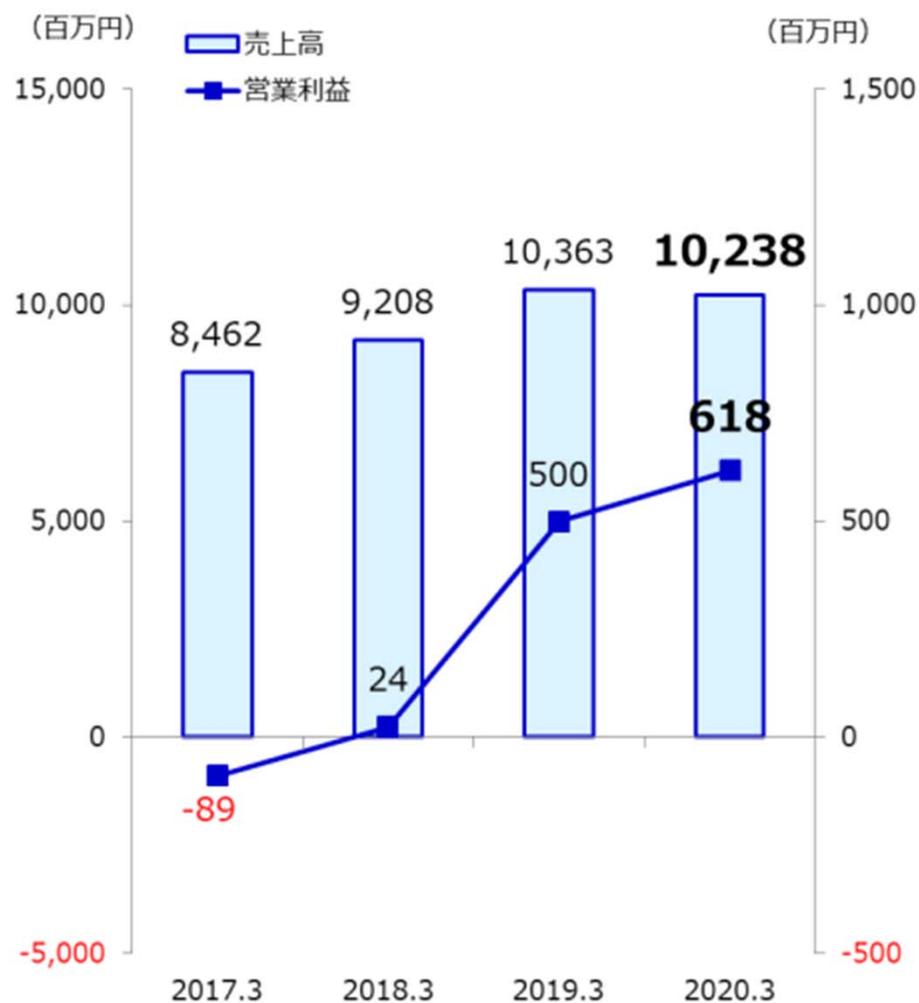
営業利益：1,565百万円

(前年比+507百万円、+47.9%)

- 設備増強に伴い、労務費、減価償却費が増加(+450百万円)したものの、高付加価値品の販売増により増益。

化成品事業セグメントの通期業績

売上高・営業利益



売上高：10,238百万円

(前年比△125百万円、△1.2%)

- 先端半導体向け高純度溶剤、香料製品が好調に推移したものの、メモリ向けなど汎用的な電子材料向け溶剤は調整局面となり、全体としては減少。
- ロジスティック事業（ケミカルタンクターミナル事業）は高稼働持続。

営業利益：618百万円

(前年比+117百万円、+19.1%)

- 高付加価値製品へのシフト加速。

2020年3月期 全社 損益計算書

- 売上高は、24,455百万円（+1,480百万円、+6%）の増収。
- 売上総利益は、固定費増（+4.5億円）を吸収し、高付加価値製品の増販により5,262百万円（+726百万円、+16%）、利益率も+1.7pt改善、利益の源泉に。
- 営業利益は、販管費を1億円の増加に留め、2,184百万円（+624百万円、+40%）の増益。

(百万円)	2019.3期	2020.3期	増減額	増減率
売上高	22,975	24,455	+1,480	+6%
売上原価	18,438	19,192	+754	+4%
売上総利益	4,536	5,262	+726	+16%
販売管理費	2,976	3,078	+101	+3%
営業利益	1,559	2,184	+624	+40%
営業外収益	162	94	△67	△42%
営業外費用	154	217	+63	+41%
経常利益	1,567	2,061	+494	+32%
特別損益	△56	△48	+8	△14%
税引前当期純利益	1,511	2,013	+502	+33%
法人税等合計	340	160	△179	△53%
当期純利益	1,171	1,852	+681	+58%

[売上総利益 +435]
製品構成改善、高付加価値製品が増加し、売上総利益率が改善（19.7%→21.5%）

[営業外収益 △67、
営業外費用 +63]
為替差益 △33、
為替差損 +56

2020年3月期 全社 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：3,463百万円（+1,365百万円、+65%） 売上増14億円の利益拡大効果（+5億円）に加え、大規模設備投資に備え、運転資金も改善（+5億円）。
- 投資CF：△5,179百万円 感光材設備増強投資の実行により支出増加。
- 財務CF：△80百万円 一部借入金返済。

	2019.3期	2020.3期	増減額
営業活動によるCF	2,097	3,463	+1,365
税金等調整前純利益	1,511	2,013	+502
減価償却費	1,944	2,172	+228
売掛債権の増減額（+は減少）	△619	△339	+279
棚卸資産の増減額（+は減少）	△713	△197	+516
仕入債務の増減額（+は増加）	222	△94	△316
その他	△247	△90	+156
投資活動によるCF	△2,499	△5,179	△2,679
フリー・キャッシュフロー	△401	△1,715	△1,313
財務活動によるCF	3,268	△80	△3,348
現金及び現金同等物に係る 換算差額	20	△33	△53
現金及び現金同等物の増減	2,886	△1,829	△4,716
現金及び現金同等物の期末残高	5,000	3,170	△1,829

[売上債権 +279、
棚卸資産 +516、
仕入債務 △316]
←
運転資金改善により増加幅圧縮

2020年3月期 全社 貸借対照表

- 株主資本は、当期純利益の増加により、1,733百万円の増加。自己資本比率27%（+3pt）。
- 利益と現預金を感光材設備へ投資し、有形固定資産+3,546百万円、設備未払金等+426百万円。有利子負債は+203百万円に留まる。

(百万円)	2019.3末	2020.3末	増減額
流動資産	17,228	15,503	△1,725
現金預金	5,412	3,582	△1,829
売上債権	4,314	4,654	339
棚卸資産	6,822	7,019	197
その他	679	246	△433
固定資産	19,637	23,627	3,990
有形固定資産	18,566	22,112	3,546
無形固定資産	417	407	△10
投資・その他	653	1,107	453
資産合計	36,865	39,130	2,264
負債	28,024	28,561	536
仕入債務	3,094	3,000	△94
有利子負債	17,984	18,188	203
その他	6,945	7,372	426
純資産	8,841	10,569	1,728
株主資本	8,830	10,563	1,733
評価・換算差額等	11	5	△5
負債・純資産合計	36,865	39,130	2,264

[現金預金 △1,829]
設備投資の支払により減少

[有形固定資産+3,546]
感光材の設備能力増強投資により増加

[自己資本比率]
27.0%（前期末比+3.0pt）

1. 2020年3月期 決算概要

2. 新型コロナウイルス感染症対策

3. 中期経営計画の進捗

4. 2021年3月期の業績見通し

新型コロナウイルス感染症対策

- 5月14日時点で当社社員の感染者発生はございません。
- 2月27日に新型コロナウイルス対策本部を設置し、対策を実施中。
 - ① 就業における感染予防策
 - ✓ 全事業所で就業状態に応じた時差出勤、車通勤、及びテレワークを実施。
 - ✓ 特に本社（東京）、西日本営業所（大阪）は原則テレワーク。
 - ② 出張・訪問・会議等について
 - ✓ 社外・他事業所への出張を原則禁止。
 - ✓ WEB 会議、TV 会議、電話会議などを活用し、感染リスクを低減。
 - ✓ 社外の方々にもご訪問を極力お控え頂いています。
 - ③ 勤務時間中の感染防止策
 - ✓ 風邪の兆候がある社員は自宅待機。
 - ✓ マスク着用、手洗い、アルコールによる手指消毒、うがい等を義務付け。
 - ✓ サプライヤー、協力会社、工事業者の方々にも同様の協力を頂いています。

皆さまのご理解ご協力に心より御礼申し上げます。

引き続き社員の健康、安全確保を図りつつ、工場の操業、製品供給を継続して参ります。

地元へのコロナ対策協力

- 当社工場の立地する自治体（千葉県市川市、東庄町、兵庫県淡路市）へ、消毒液を寄付。今後も、地域に貢献する活動を行ってまいります。



左上) 千葉県市川市消防局へ消毒用エタノール製剤90Lを寄付。

右上) 千葉県東庄町へ消毒用エタノール製剤75L、次亜塩素酸ナトリウム水溶液180Lを寄付。

左下) 兵庫県淡路市へ消毒用エタノール製剤90Lを寄付。

1. 2020年3月期 決算概要

2. 新型コロナウイルス感染症対策

3. 中期経営計画の進捗

4. 2021年3月期の業績見通し

半導体市場の推移と長期予測

- 1980年代以降、情報化社会の到来により、半導体需要は急拡大。
- 2020年は0～マイナス成長見込み。
- 情報通信技術の進展により、2020年→2030年は1.5～2倍の成長が見込まれる。

世界半導体売上高

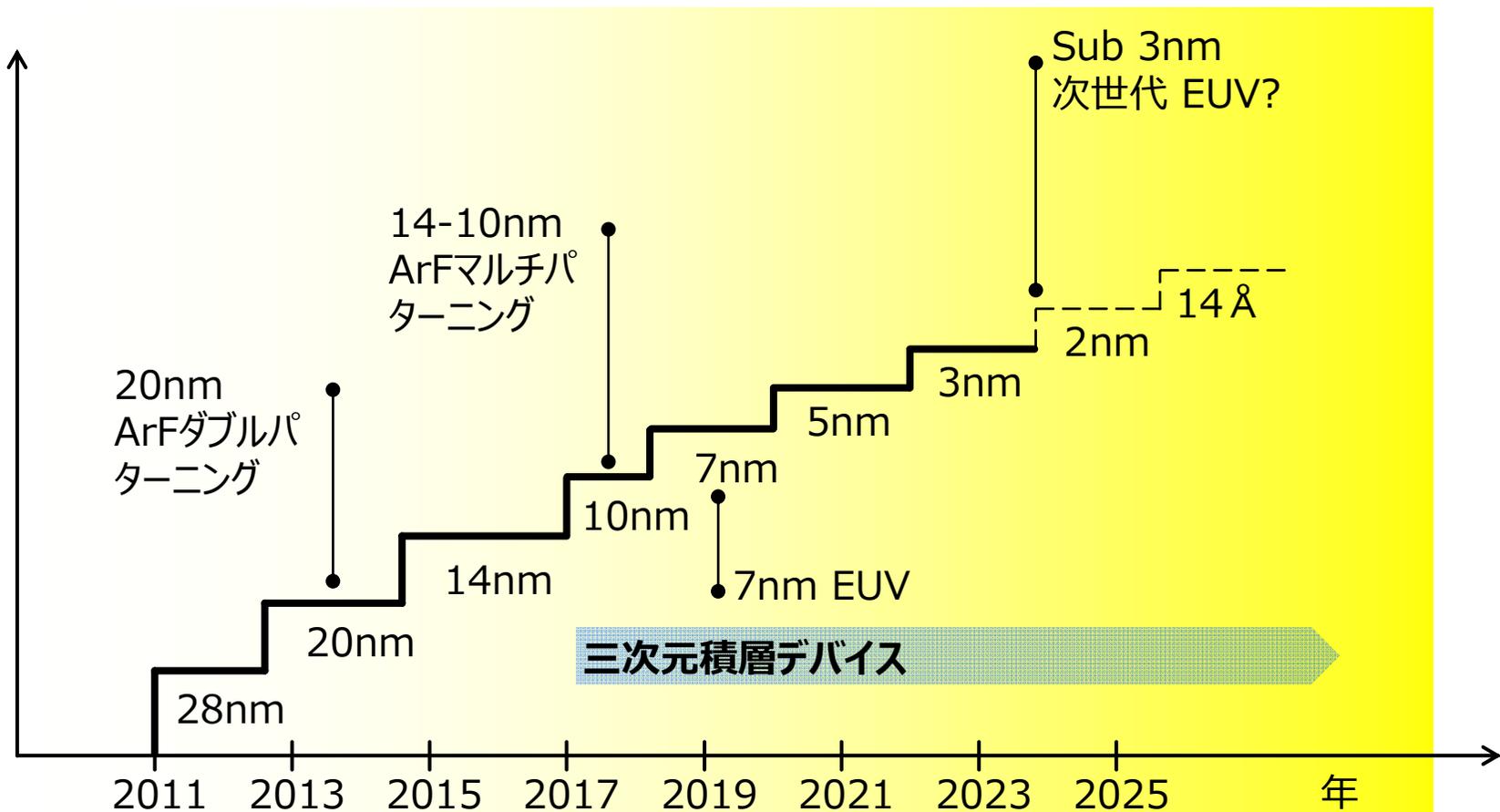
(Billion USD)



出所：WSTS、富士キメラ総研より当社作成 (予測)

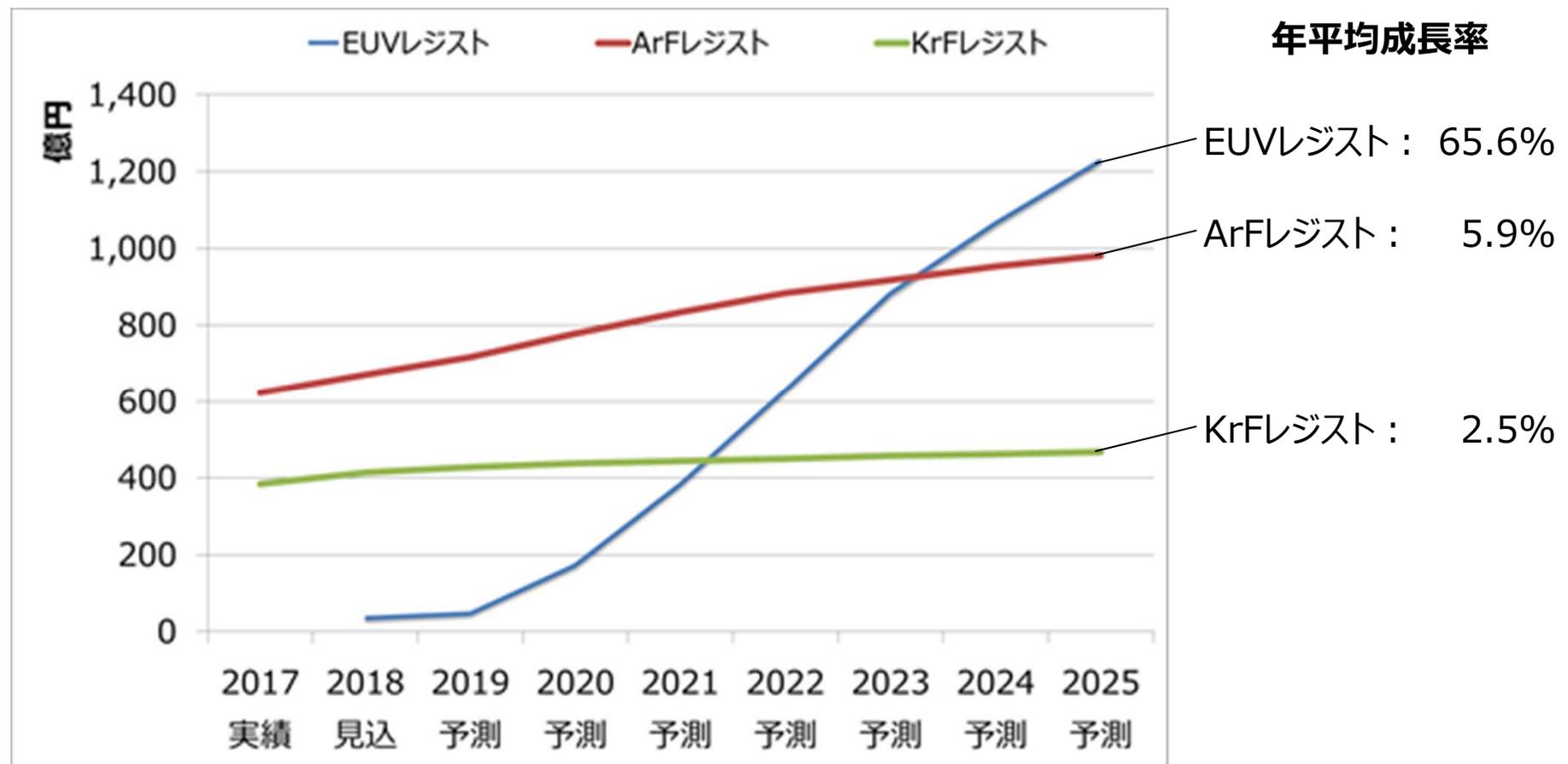
光を使った配線の微細化

- 半導体の線幅の微細化は継続、現時点では5nmまで量産化。
- 今後2025年に向けて、2nmレベルまで微細化が検討されている。
- 配線の微細化の進展に合わせ、超高純度溶剤、超高純度感光材のニーズは拡大。



フォトレジスト市場 実績及び予測

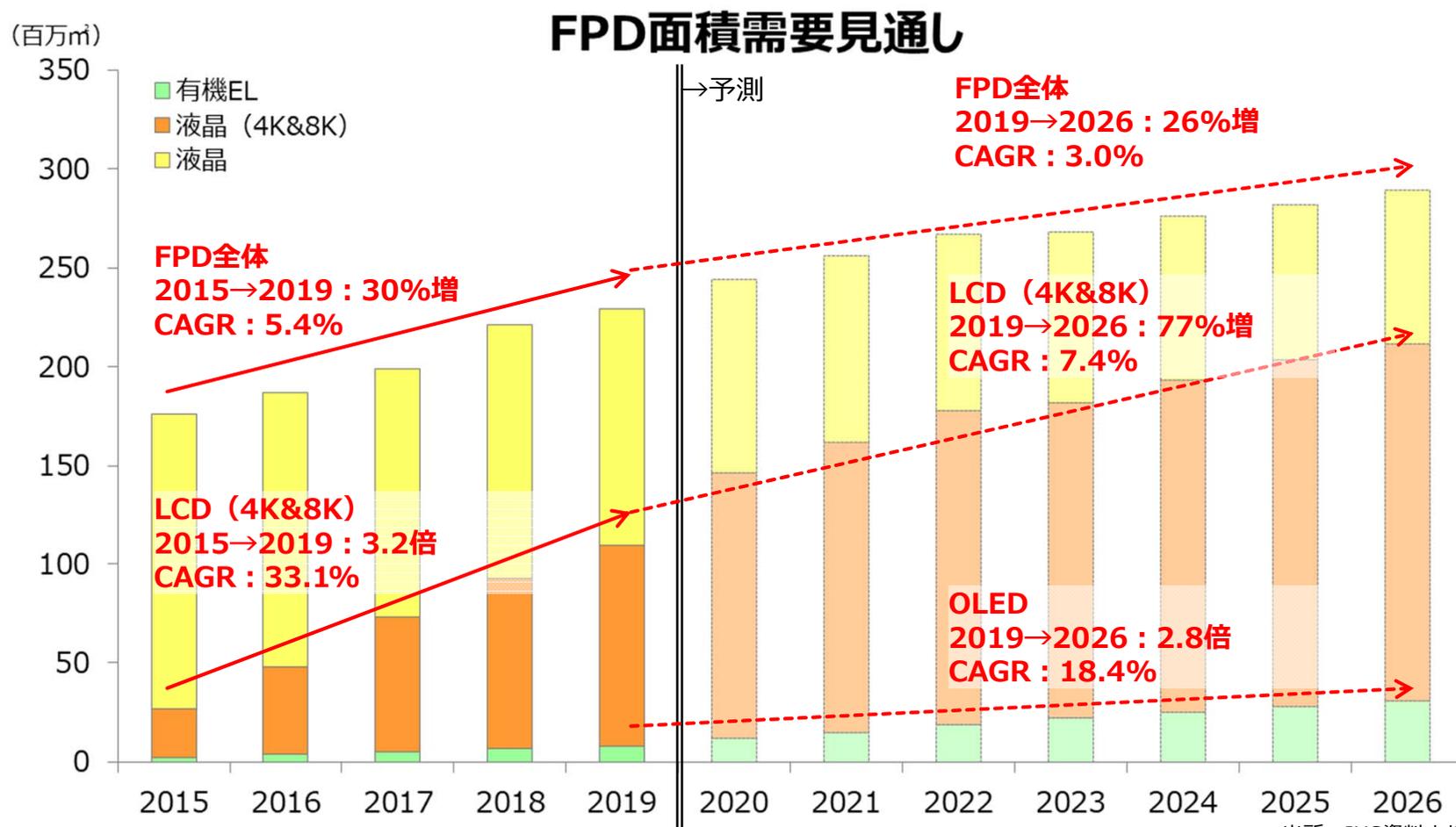
- EUVレジストは、2019年に量産開始。
- 2021年は前年比2倍、2022年は1.5倍、2023年は1.2倍と拡大見込み。



出所：(株)富士キメラ総研「A（オングストローム）半導体プロセス材料／技術の展望調査（2018年7月）」より当社作成

ディスプレイ市場 長期見通し

- FPD（フラットパネルディスプレイ）市場は、年率3%の緩やかな成長が継続。
- LCD（4K&8K）と有機ELを合算した高精細品の成長率は8.6%と高く、2026年には全体の70%を占める。



出所：IHS資料より当社作成

フォトレジスト等に含まれる当社製品

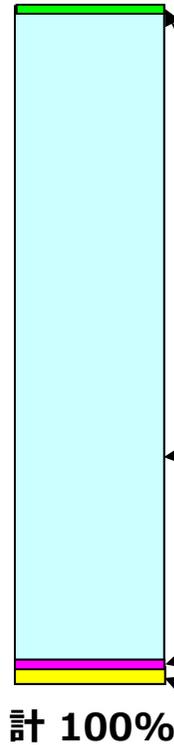
- 当社製品は、半導体、FPDの製造に使われるフォトレジストの代表的な構成材料



フォトレジスト（液体）

※レジストメーカーにて調合。

一般的な
フォトレジストの
構成割合



添加剤 (界面活性剤 etc.)

高純度溶剤 (PGMEA, EL etc.)
※化成品事業

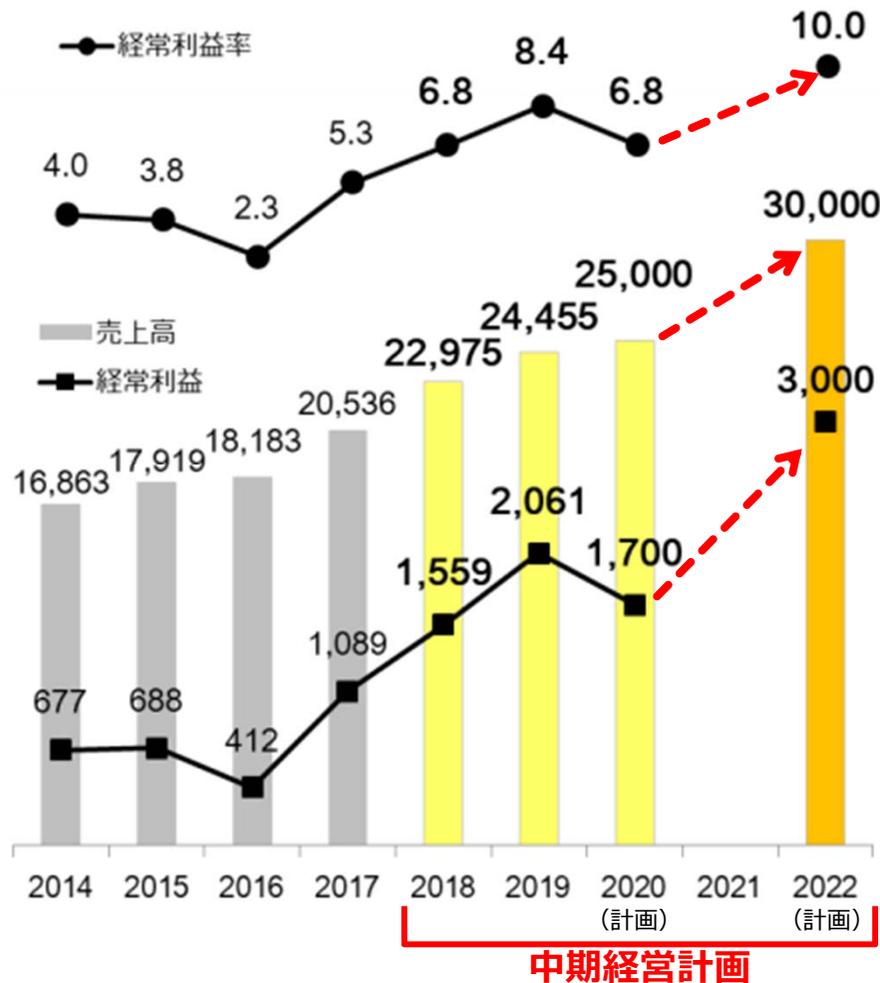
感光材
数% ~ 10数%

ポリマー (レジスト樹脂、ベースポリマー)
数% ~ 10数%

当社製品

中期経営計画の進捗

- 足元では新型コロナウイルス感染拡大による影響があるものの、当社中期経営計画「TGC300：2023年3月期 売上高300億円、経常利益30億円、経常利益率10%以上」は、現時点で変更無し。配当も維持。



- 中期経営計画2年目は、中計の社内計画値を超過。
(業績予想比 売上高 Δ 4%、経常利益+21%)
(中計計画比 売上高 Δ 6%、経常利益+19%)
- 電子材料の供給拡大に向けて、設備増強工事も計画通り進行中。
 - ✓ 既存設備の能力増強→完了
 - ✓ 新製造棟→2020年9月末完成予定
- 中期経営計画の達成に向け、引き続き全社一丸となり取り組んで参ります。

1. 2020年3月期 決算概要

2. 新型コロナウイルス感染症対策

3. 中期経営計画の進捗

4. 2021年3月期の業績見通し

2021年3月期 業績見通しの背景

■ 外部環境

- 新型コロナウイルス感染症により、自動車・スマートフォン等の需要に影響が出る可能性があり、半導体、ディスプレイ関連の先行きに不透明感あり。
- しかし5Gインフラ投資、情報通信技術の進化やデータセンター投資により、先端領域の半導体需要や、生活必需品であるトイレタリー用途の香料は、現段階では堅調と予測。

■ 足元の状況

- 前期4Q～当期1Qにかけて、在庫積増しなどにより需要が増加傾向。
- 2Q～3Q以降、感染状況や消費動向に需要減退の可能性。
- 下期の感光材新製造棟完成に伴い、固定費は全社で前年比約8億円増加予定。

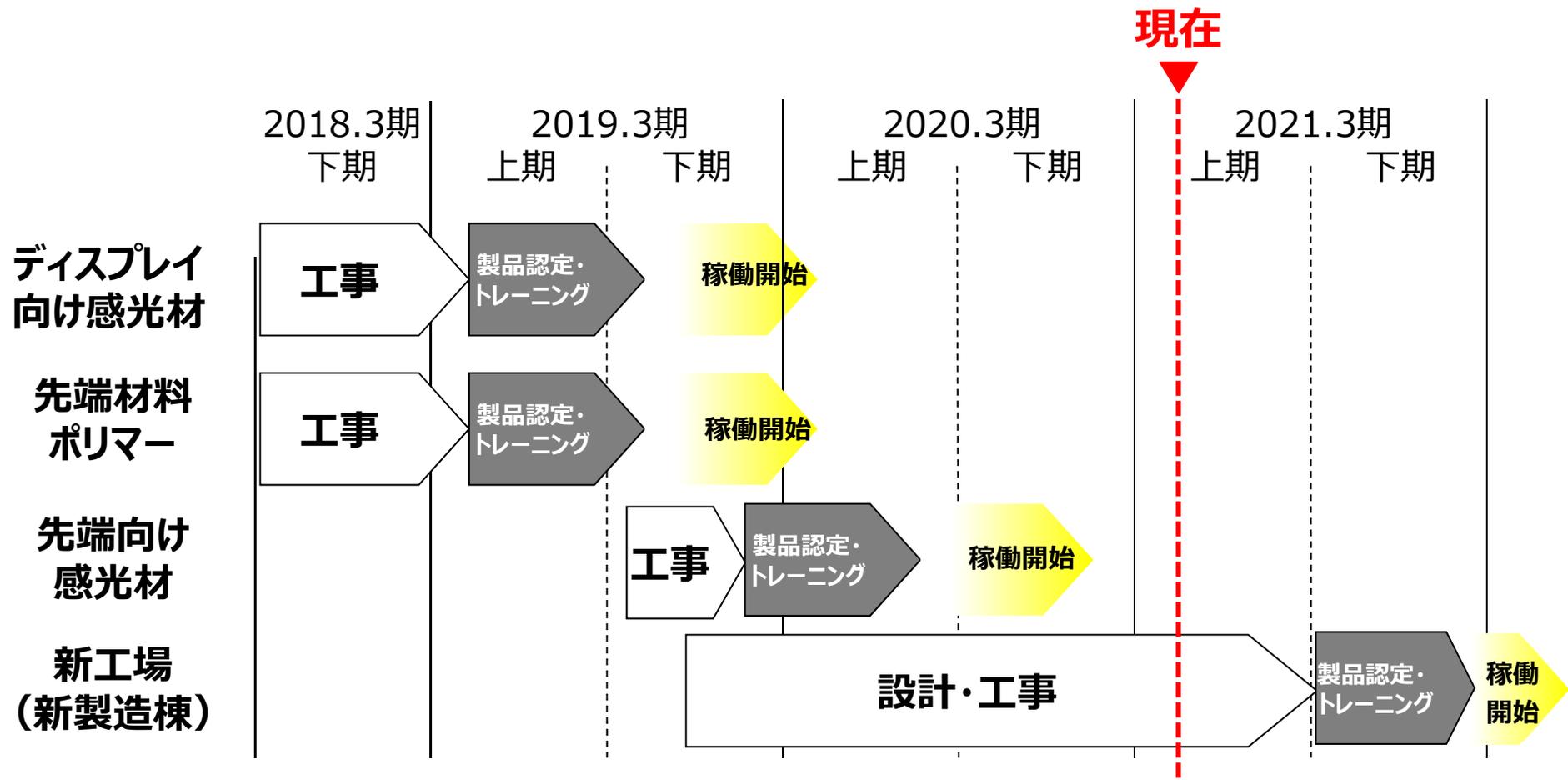
2021年3月期 業績予想

- 先端半導体向け（感光材・化成品）、及び香料材料の販売増加を見込む。
- 利益面においては、9月完成予定の感光材工場等の全社の固定費増（+約8億円）から減益見込み。
- 想定為替レートは ¥105/\$。1株当たり配当金額は、年間20円から変更なし。

	2020.3 実績 (百万円)	2021.3 業績予想	前期実績vs今回予想	
			増減額	増減率
売上高	24,455	25,000	+545	+2.2%
営業利益	2,184	1,800	△384	△17.6%
経常利益	2,061	1,700	△361	△17.5%
当期純利益	1,852	1,100	△752	△40.6%
1株当たり当期純利益	233.43	135.14	※決算発表日時点での業績予想値であり、見込みに変更が生じた場合は速やかに開示致します。	
1株当たり年間配当金	20.00	20.00		
為替レート (USD)	¥109/\$	¥105/\$		

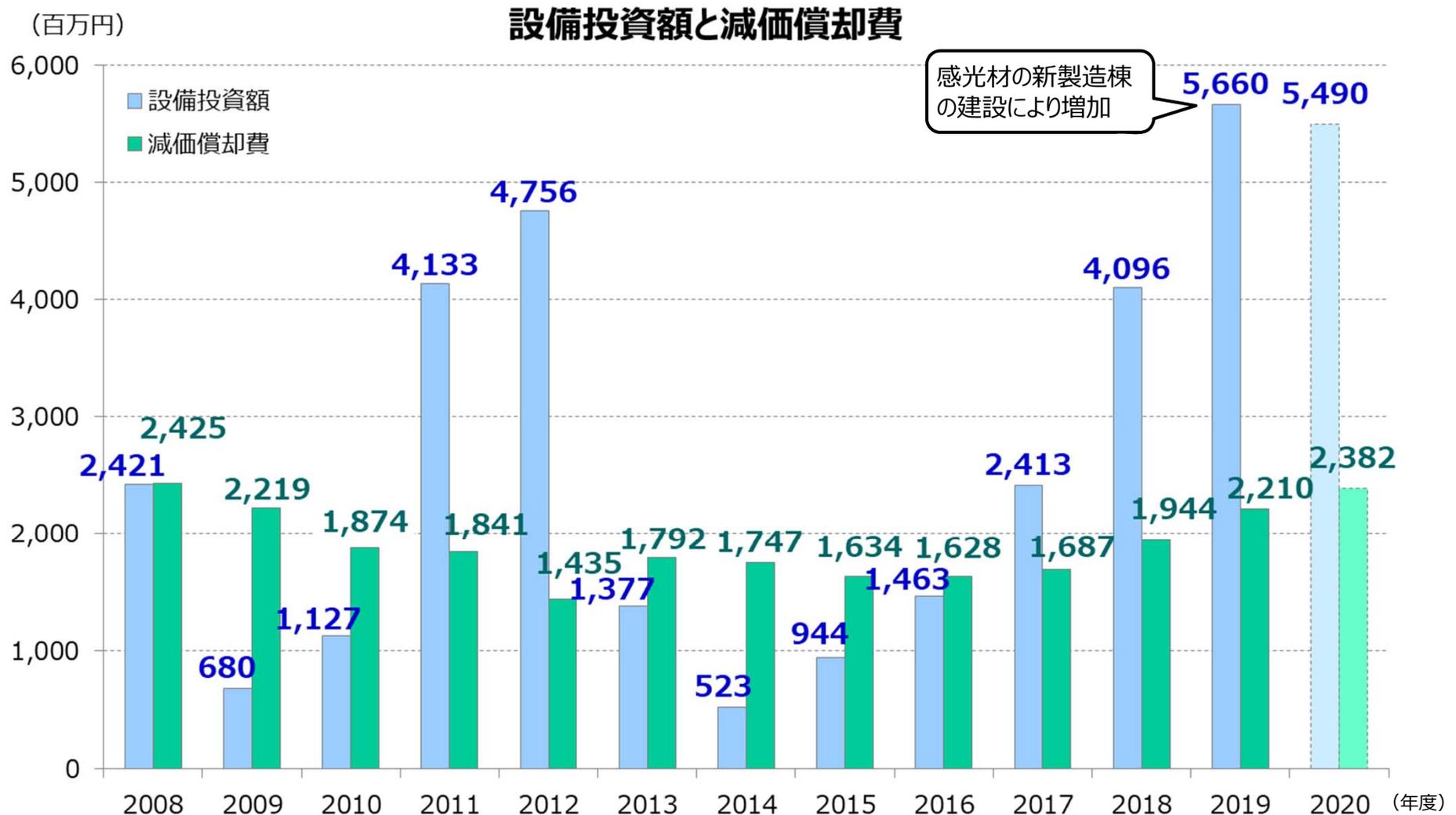
感光材の生産能力増強の進捗

- 継続的な需要増に対応するため、感光材の設備能力増強も計画通り進捗。
- 第1弾のFPD・ポリマー向け設備、第2弾の先端半導体向け設備の増強は完了。
- 第3弾となる新製造棟も2020年9月末の完成に向け順調に進行中。



設備投資額と減価償却費の推移

- 2020年度も設備投資は前期同水準の約55億円を計画。
- 減価償却費は、2008年と同水準まで回帰。



新製造棟（第4感光材工場） 工事進捗



【完成予想図】



【工事進捗状況】

2020年4月17日現在

独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

 東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。